

60

Ex# 1566

Proj. No.	113
S. A. No.	15022I
Sack No.	
Item No.	60

總研機密 美



京蒲

# 極秘

皇國總力戰指導機構ニ  
關スル研究（概案）

要 摘					
<p>一、本研究ハ當面ノ内外危局ニ鑑ミ皇國總力戰指導機構ノ 現狀ヲ檢討シ之ガ改善ニ對スル應急策ヲ示唆セントス ルモノナリ</p> <p>ニ、本研究ハ未完成ノモノナルヲ以テ指定配付者以外ヘノ 發表ヲ禁ズ</p>	總 力 戰 研 究 所	處 理	調製部數	調製年月日	文書番號 一連番號
用済後返却		四〇部	昭和十六年二月三日	總研機密第貳號	



皇國總力戰指導機構ニ關スル研究（概案）目次

(一)	總力戰のニ觀タル内外現情勢
(二)	皇國總力戰指導機構ノ現狀檢討
(三)	列強總力戰指導機構ノ現狀
(四)	皇國總力戰指導機構ノ改組概案
(五)	附屬意見
別表第一	皇國總力戰指導機構改組概案其ノ一（甲案）
別表第二	同 其ノ二（乙案）
別表第三	同 其ノ三（丙案）
別表第四	國防諸計畫（總力戰計畫）及之等ノ相互關係（概案）
同右附屬	國防基本計畫ノ內容解說

（終）



皇國總力戰指導機構ニ關スル研究（概案）

昭和十六年一月三十日

總力戰研究所

〔一〕總力戰的ニ觀タル内外ノ現情勢

近代國防ガ平戰時ヲ通ズル一大總力戰的様相ニ進展シツ、アルハ茲ニ贅言ヲ要セザルトコロニシテ即列強ハ國力ヲ擧ゲテ軍備擴充ニ狂奔シツ、モ必ズシモ武力戰ヲ欲スルニアラズ或ハ大軍備ヲ背景トスル威壓懷柔外交ニ依リ或ハ宣傳謀略經濟戰ニ依リ弱小國ヲ傘下ニ收メツ、敵性國ヲ無力弱體ニ導キ以テ自己國防態勢ノ強化ニ飽クトコロナキ實相ナリ而シテ支那事變及歐洲戰爭ノ發展ガ遠カラズ帝國ヲモ驅ツテ世界大動亂ノ渦中ニ投ゼントスルノ兆候顯著ナルコトモ亦當面現實ノ事態ナリトス



翻ツテ我國內情勢ヲ檢討スルニ蔣介石ノ武力抗戰ヲ以テ攻撃正面トシ經濟戰外交戰思想戰等ヲ以テ側背ヲ衝カントスル敵性諸國ノ對日聯合總力戰ハ漸次其ノ功果ヲ現ハシ事變長期化ニ因ル國力戰力消耗資源不足ニ基ク國防力充實ノ不如意等ノ傾向ヲ示シツ、アルニ加ヘ官民ノ一部ニ於ケル自由主義個人主義獨善排他割據的思想ノ暗躍未ダ其ノ跡ヲ絶タズ皇國總力戰態勢ノ急速整備上一抹ノ不安ナキ能ハザル實情ナリ

(二) 皇國總力戰指導機構ノ現狀檢討

前述ノ情勢ニ鑑ミ帝國ガ舊思想ノ國防體制ニ妥如タル能ハズ軍備並ニ生産力ノ擴充ニ邁進スル一方企畫院情報局其他各官廳組織ノ整備



5-

充實國民組織ノ改編等ニ目覺ムルトコロアリ以テ只管國家總力戰ノ要求ニ即應セントシツ、アルハ蓋シ當然ノ措置ナリト謂フベシ

而シテ國防目的ノ達成即總力戰成功ノ爲ニハ國家機構ヲシテ之ニ適合セシムルコトハ其ノ先決要件ナルトコロ總力戰實施ノ各部機構ガ前記ノ如ク逐次新體制ヘノ轉換ヲ見ツ、アルニ拘ラズ最肝腎ナル總力戰指導ノ中樞機構ノ根本制度ハ明治時代ニ於テ制定セラレタル儘何等ノ改善ヲ見ザル現狀ナリ即陸海軍統帥部及陸海軍省組織ノ對立統帥ト政務トノ分離（所謂統帥權ノ獨立）等之ニシテ前大戰當時ニ於ケル獨乙ノ制度ト酷似セルモノアリ、惟フニ國防ガ概ネ武力戰ノ範圍ニ限ラレ且陸海軍ノ用兵及國防上ノ要求ニ大ナル交錯衝突ナカリシ明治時代ニ於テハ現機構ヲ以テシテモ左シタル不都合ナク寧ロ



其ノ特長ヲ發揮スルニ有利ナルモノアリシモ國防様式ガ武力經濟力  
思想力政略等ヲ舉ゲテノ總力戰トナリ陸海軍政府國民ガ一貫セル方  
針ノ下ニ渾然一體タルベシ今日ノ要求ニ對シテ現機構ハ相當ノ支障  
ヲ來シツ、アリト謂ハザルベカラズ其ノ重ナルモノヲ舉グレバ左ノ  
如シ

一、國防（總力戰）指導ニ對スル單一中樞機關ナキ爲國防上重要ナル  
各官廳ノ計畫執務目標等ニ齟齬ヲ生ジ又各部ノ計畫ニ相互關聯性  
不充分ナル結果實行困難ノ机上計畫ニ陥リ或ハ又國防上必須ノ計  
畫ヲ缺除乃至等閑視セラレタルモノ少カラズ

二、國防上重要ナル情報蒐集及資料調査ニ對シ各部別個ノ機關ヲ有シ  
之ガ爲各部ハ屢々偏倚不完全ナル情報資料ヲ基礎ニ相異ル情勢判



7  
斷ヲ行ヒ其ノ執レモガ正鵠ヲ得ザル場合アリ

三、國防基本方策ニ關シ各部ハ別個ニ事務機關ヲ有シ各部獨善的見解

ニ於テ且各部別個ノ情勢判斷ノ下ニ案ヲ立テツ、アル爲其ノ結果  
ニ於テ各部意見ノ對立ヲ來ス場合多シ而シテ各部意見ノ對立ヲ調

整シ國家トシテ之ヲ歸一セシムル爲ニハ當事者ハ多大ノ時間ト勞  
力ヲ論争ニ空消シ處置ノ遷延好機ノ逸失、互讓妥協ニ依ル骨拔ニ  
シテ重點ノ喪失等幾多ノ不利ヲ生ズルコト多シ

四、前記ノ如キ各部同種業務機關ノ重複併有ハ人員經費ノ浪費トナリ  
而モ各部共人員經費不充分ノ爲功果舉ラズ

五、所謂統帥權ノ獨立ハ一面ニ於テ幾多ノ長所ヲ有スルモ反面動モス  
レバ統帥ノ行過ギトナリ經濟戰思想戰政略等ヲ輕視又ハ無視シタ



ル武力戦萬能ノ弊ニ陥リ國力不相應ノ作戰ヲ企圖シ或ハ無計畫ノ  
戦争ヲ誘發スルコトアリ之ガ爲當初作戰ノ成功モ之ヲ持續シ得ズ  
戰勢固着シテ消耗戰トナリ國內動搖シ遂ニハ作戰ニ勝ツテ戦争ニ  
敗ル。ノ結果ヲ招來スルコトナキヲ保シ難シ前大戰ニ於ケル獨乙  
ノ敗戦ニ其ノ例ヲ見ルベシ

六近時帝國國民ノ大部ガ上下ヲ通ジ總力戰體制ノ急速整備ヲ希求シ  
アルニ拘ラズ之ガ實現意ノ如クナラザルハ主トシテ國家政治力ノ  
不充分ナルニ因ル而シテ國家政治力強化ノ爲ニハ陸海軍ガ一致シ  
テ政府ニ對シ國防上ノ要求ヲ明示シ政府ハ之ガ實行ノ責任者トシ  
テ陸海軍ノ強力ナル支援ヲ必要トスルトコロ現機構ハ此ノ目的ニ  
添ハザル點少カラズ



七 帝國ノ現制度ガ武力戦竝ニ政略指導機構ニ缺陷アルコト前述ノ如クナルノミナラズ謀略、攻勢的經濟戰思想戰等ニ對スル中樞指導機

機構ハ皆無ニ近シト謂ヒ得ベシ之ガ爲之等各種方策ノ適切機徴ナ  
ル關聯運用ニ依リ爲シ得ル限り武力行使ヲ避ケツ、國家目的ヲ達

成スルヲ本旨トスル總力戰ノ指導ニ於テ列強ニ比シ著シク不如意  
ナルハ寧ロ當然ナリト云フベシ



10

### 三列強總力戰指導機構ノ現狀

抑モ總力戰ノ要訣ガ用兵一般ノ原則ト同様ニ統制アリ且一貫セル方針ノ下ニ國家ノ總力ヲ適切ナル方式ヲ以テ重點ニ指向スルニアルコト竝ニ之ガ爲一元化セル指導機關ヲ有スルノ最有利ナルコト言ヲ俟タザルトコロナリ、之ヲ諸外國ノ現狀ニ徵スルニ獨乙ガ夙ニ前大戰ノ失敗ヲ自覺シテ現制度ニ於テハ統帥竝ニ戰爭指導機構ノ一元化ニ對シ劃期的改正ヲ行ヒ又蘇聯邦米國等ノ高度國防國家ヲ始メ英國重慶政權等ガ孰レモ實質的ニ一元化セル總力戰指導機構ヲ有セルコトハ吾人ノ特ニ注目ヲ要スル事實ナリトス（參考資料別冊）。



〔四〕皇國總力戰指導機構ノ改組概要

皇國本然ノ姿ハ文武ノ大權天皇ニ歸一シ天皇御自ラ統帥並ニ政務ヲ親裁セラルルニアリテ現下ノ國際總力戰ニ對シテモ理想的國體ナルベキトコロ帝國ノ總力戰實施ノ實狀ハ必ズシモ理想的ナラザルモナルハ主トシテ之等天皇ノ大權ヲ輔翼シ奉ルベキ機構ニ於テ相當ノ缺陷アルニ因ルコト既述ノ如シ

以上ノ事實ニ鑑ミ皇國總力戰ガ一元的ニ實施セラルル爲其ノ指導機構ニ具備スベキ要件ヲ考察スルニ概ネ左ノ如シ

- 一、天皇御自ラ總力戰指導ヲ親裁セラルルノ本義ヲ誤ラザルコト
- 二、統帥ト政務ニ密接不可分ノ關聯ヲ保有セシムルト共ニ統帥ノ自由ヲ束縛セラレザルコト



三、陸海軍統帥及陸海軍軍政四者間ノ合理的協調ヲ保タシムルコト  
四、成ルベク憲法改正各官廳制度ノ大變革等ヲ避ケ實現ヲ容易迅速ナ

ラシムルト共ニ新機構ヘノ轉換ヲ圓滑ナラシムルコト

五、總力戰指導中樞機構（國防本部ト假稱ス以下之ニ倣フ）ニ於テ計

畫セラレタルモノハ武力戰、政略、思想戰、經濟戰等々各部門ニ  
巨リ實行性ヲ有スルコト

六、國防本部（假稱）内ノ業務ハ一貫セル統制ノ下ニ處理セラレ充分

ニ審議洗練セラレ得ルト共ニ必要ニ應ジテ迅速機敏ナル決裁ヲ可  
能ナラシムルコト

七、國防本部（假稱）ガ各官廳ノ出店組合ノ觀ヲ呈シ對立競争又ハ妥

協調停ノ機關タル弊ニ陷ルヲ避ケ眞ニ總力戰ノ原則ニ從ヒ重點ア



ル機宜ノ對策ヲ可能ナラシメ得ルモノナルコト

八、國防本部（假稱）ノ計畫ヲシテ眞ニ權威アラシムル爲ニハ總力戰指導ニ對スル情況判斷ヲ適正完璧ナラシムルヲ要ス之ニ對シ有力ナル情報機關（總力戰資料ノ調査整理ヲ含ム）ヲ有セシムルコト

特ニ緊要ナリ

以上ノ要件ニ對シ帝國現在ノ制度ニ即シ比較的實現容易ナリト認めラルル諸案竝ニ其ノ利害左ノ如シ

甲案（別表第一參照）

現在ノ大本營連絡會議及附屬事務局ヲ常設（國防本部ト假稱）シ國防及國家總力戰ニ對スル基本計畫ヲ掌ラシメントスル着想ナリ  
本案ハ前述要件六七ニ對シ稍不充分ナル缺點ヲ有スルモ其ノ他ノ



條件ヲ概ネ充足シ特ニ要件五ニ對シ有利ナリ

(皇國總力戰指導機構概案本文十二枚目一行乃至六行改案)

ノ調和、

軍ト政府トノ緊密化ノ四要件ヲ一舉ニ満足スルモノニシテ理想案トス  
本案ハ陸海軍統帥部、陸海軍省、政府ノ上ニ更ニ厯大ナル機關ヲ新設シ  
屋上屋ヲ架スルガ如ク觀ラルルモ事實ハ左ニ非ズシテ參謀總長、軍令部  
總長首相外各大臣ガ各其ノ下ニ共通ノ有力ナル調査計畫機關ヲ有スト  
見ルチ至當トス

乙 案 (別表第二參照)

陸海軍統帥部ヲ合體強化シ之ニ武力戰以外ノ總力戰ニ對スル計畫機關  
ヲ充實セントスルモノナリ  
本案ハ前述要件五ニ對シ稍不充分ナルモ其ノ他ノ條件ヲ概ネ充足シ特  
ニ要件六七ニ對シ有利ナリ  
本案ハ一見實現容易ナルガ如キモ參謀本部軍令部ノ合體ハ事務的ニ相  
當混亂ヲ生ジ且陸海軍各統帥部ト軍政部間ノ調和ハ却テ困難ヲ增加ス  
ルノ虞アリ又統帥部ト政府トノ關係ハ現状ト大差ナキ不利ヲ伴フ



條件ヲ概ネ充足シ特ニ要件五ニ對シ有利ナリ

乙案（別紙第二參照）

陸海軍統帥部ヲ合體強化シ之ニ武力戰以外ノ總力戰ニ對スル計畫機關ヲ充實セントスルモノナリ

本案ハ前述要件五ニ對シ稍不充分ナルモ其ノ他ノ條件ヲ概ネ充足シ特ニ要件六七ニ對シ有利ナリ

丙案（別紙第三參照）

統帥部ノ機構ハ概ネ乙案ニ準ズル外相當多數ニ上ル陸（海）軍部隊ノ天皇直隸ヲ廢シ陸（海）軍總司令（長）官ヲシテ之等ヲ統轄セシメ且陸（海）軍大臣ヲ兼任セシムル案ニシテ獨乙ノ現制度ト類似ノモノナリ



15

本案ハ乙案ノ有スル利害ノ外陸（海）軍作戰ト陸（海）軍軍政ト  
ノ協調ヲ容易ナラシムルノ利アルモ作戰ガ政務ニ制肘セラル虞ア  
ルノ不利ヲ伴フ

尙總力戰指導機構立案ニ當リ國防及總力戰ニ必要ナル諸計畫（附屬  
業務）竝ニ之等ノ相互關係ヲ檢討スルノ要アルトコロ之ニ對スル概  
案竝ニ國防本部ニ於テ掌ルベキ各種國防基本計畫ノ内容ニ關スル說  
明別紙<sup>表</sup>第四（附屬書共）ノ如シ



16

(五) 附屬意見

抑モ軍統帥ノ爲各指揮官ガ統制アル單一司令部ヲ必要トスルハ兵ヲ  
談ズル者ノ悉クガ自明ノ公理トナセルト同様ニ苟モ國家總力戰ノ本  
質ヲ理解スル者ニシテ之ニ對スル統一指導機構ノ必要ヲ痛感セザル  
ハナシ而シテ帝國統帥機構ノ一元化乃至戰爭指導機構ノ強化ニ就テ  
モ國內一部ニ於テ之ガ實現ヲ高唱セラル、コト既ニ年久シキモノア  
リシニ拘ラズ今日尙之ガ具體化ヲ見ザルハ既往時世ノ要求剴切ナラ  
ザリシニ因ルコト勿論ナルモ反面提案ノ動機ニ不純ナルモノナシト  
セズ爲各部ガ自己既得權限ノ縮少ヲ危惧シ或ハ名譽アル傳統ヲ理由  
トシ或ハ憲法ノ獨善的解決ヲ楯ニシテ舊體制ニ執着シタルニ因ス  
然ルニ今ヤ内外ノ情勢ハ帝國ヲシテ高度國防國家ノ急速整備總力戰



17

體制ノ即時完成ヲ強要セル最後ノ段階ニ立タシムルニ至レリ此ノ際各部ノ責任者ハ國家總力戰ノ大局的見地ニ立チ一切ノ私心ヲ棄テ大英斷ノ下之等年來ノ懸案ヲ一舉ニ解決スルコト刻下焦眉ノ急務ナリト斷ゼザルヲ得ズ而シテ之ガ爲先ヅ必要ト認ムル對策左記ノ如シ

記

一、政府ハ統帥部ノ同意ヲ得テ國防中樞機構改組對策委員會ヲ編成ス其ノ編制別紙（概案）ノ如シ

本委員會ハ內閣總理大臣ノ管理ニ屬スルモ各所管事項ニ關シテハ陸海軍大臣參謀總長軍令部總長ノ區處ヲ受ク

二、前項委員會ハ概ネ昭和十六年 月 日迄ニ左ノ諸號ニ就キ研究シ其ノ結果ヲ答申ス



18

(イ) 現代國防即總力戰實施上必要ナル諸計畫並ニ業務ノ種別及之等ノ相互關係（參考資料別紙表第四）

(ロ) 前號諸計畫並ニ業務ヲシテ總力戰ノ要求ニ合致セシムルニ最適當ナル國防中樞機構ノ改組案及之ニ關聯シテ各官廳組織又ハ法律ノ改正ヲ要スル事項（參考資料別紙表第一乃至第三）

(ハ) 前號實施ニ必要ナル法的及事務的處理事項

三、前項委員會ノ答申ニ基キ政府及統帥部ハ速ニ所要ノ措置ヲ斷行ス

（終）

（別紙第一乃至第四添）



(別紙)

國防中樞機構改組對策委員會編制(概案)

委員長 總力戰研究所長

委員 陸軍省海軍省(各)局長一

同 右 課長級二(内一幹事)

同 右 課員級一(幹事輔佐)

參謀本部軍令部(各)部長二

同 右 課長級四(内二幹事)

同 右 課員級二(幹事輔佐)

法制局 課長級一(幹事)

大藏省 課長級一(幹事)

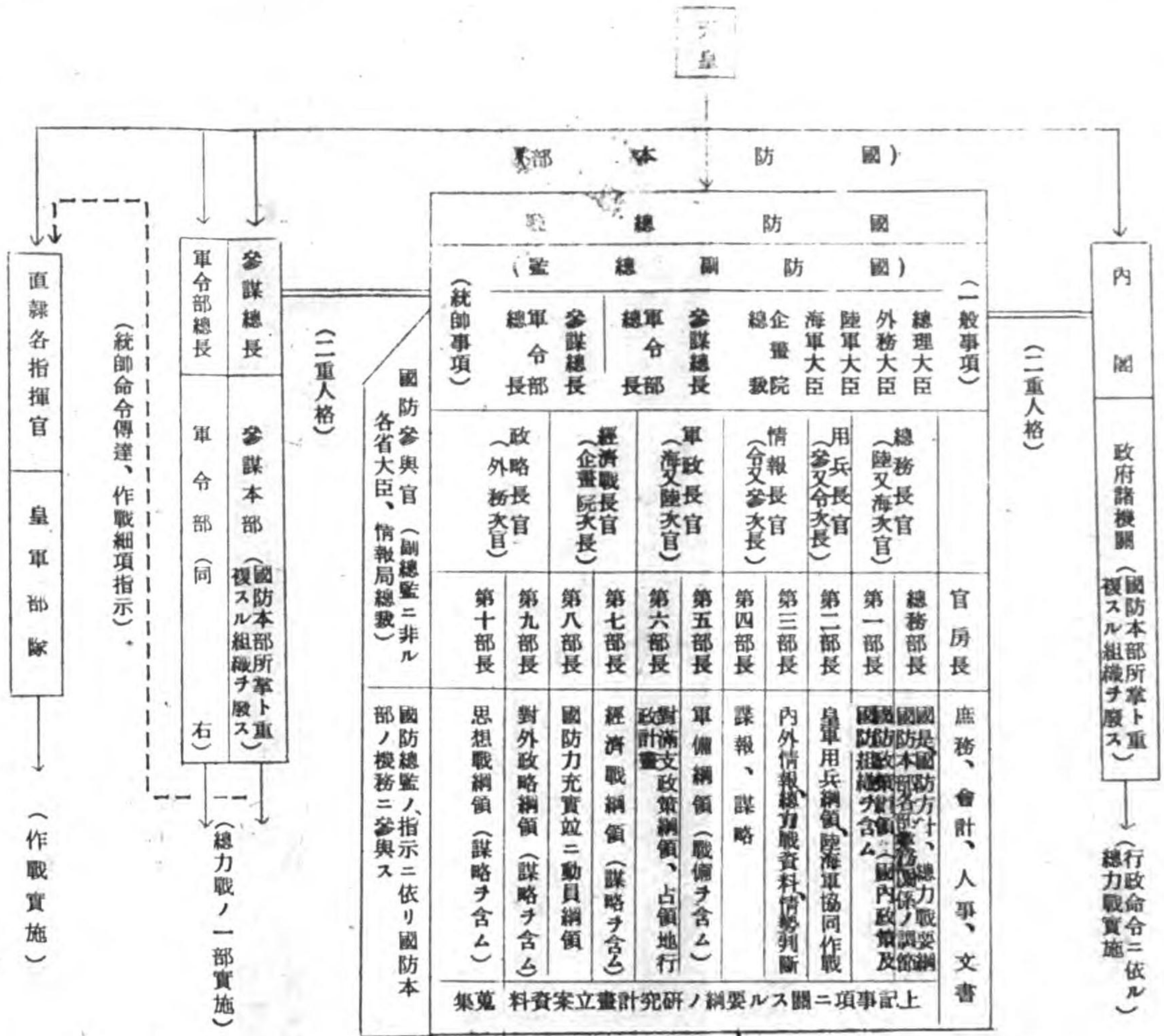
企業院 課長級二

總力戰研究所 所員八(内三幹事)

(註) 軍機事項ニ關シテハ武官ノミチ以テ編制スル特別分科委員會ニ於テ取扱フモノトス



表第一) 皇國總力戰指導機構改組概案其ノ一 (甲案)

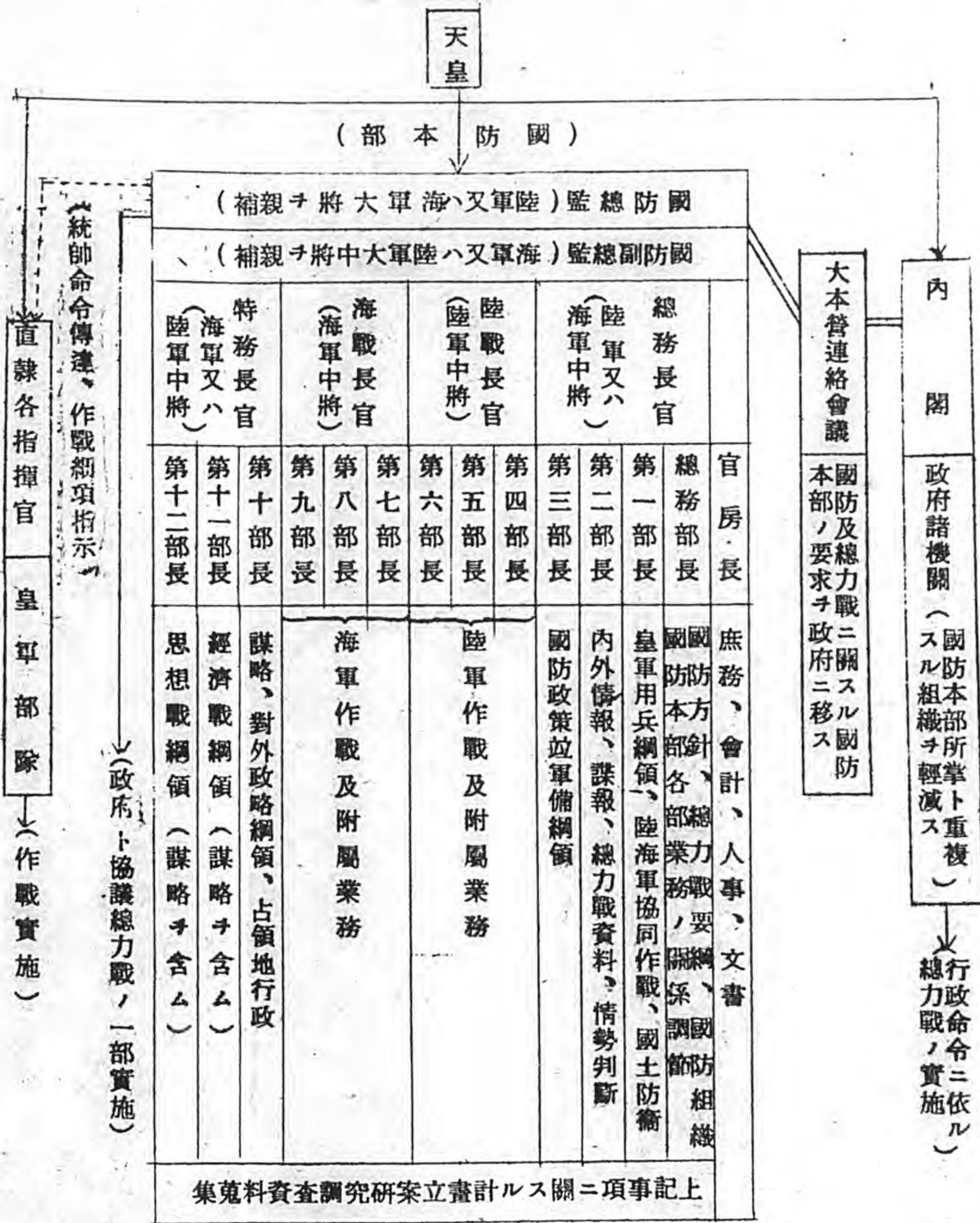


(説明)

- 一、本機構ノ要旨ハ大本營連絡會議及附屬事務局ヲ常設 (國防本部ト假稱) セントスルモノナリ從テ國防本部自體ハ實行ノ權限ヲ有セズ純然タル立案計畫機關ナリ
- 二、國防總監ハ副總監タル資格者中ヨリ之ヲ兼任スルヤ又ハ皇族等ヲ以テ之ニ專任スルヤ研究ヲ要ス
- 三、國防總監ハ天皇ニ諫シ國防本部ヲ管理シ左ノ事項ヲ掌ル
  - (一) 上意ヲ體シ國防及國家總力戰ニ關スル要綱ヲ案劃シ政府及陸海軍統帥部ヲ通ジテ之ヲ實行ニ移ス
  - (二) 國防及國家總力戰ニ關スル政府統帥部業務ノ關係ヲ調節ス
  - (三) 前二項ニ必要ナル情報ヲ蒐集シ又政府統帥部各官廳ニ對シ必要ナル資料ヲ提出ヲ要求ス
- 四、國防副總監ハ國防總監ヲ輔佐スルト共ニ政府及統帥部責任者ノ人格ニ於テ國防本部計畫又ハ立案事項ノ實行ニ任ズ但シ統帥事項ニ關シテハ參謀總長及軍令部總長ノ協同所掌トス
- 五、國防副總監タルベキモノノ資格員數ニ就テハ更ニ研究ヲ要ス、國防本部各長官ニ付テモ亦同ジ
- 六、國防本部各部長及官房長ニハ陸海軍武官 (少將級) 又ハ文官 (勅任二等) 等級) ヲ專任スルヲ例トスルモ新設當初其他必要ニ應ジ其ノ一部ヲ兼任トスルコトヲ得
- 七、國防本部各長官及部長ノ所掌ト各部長ト各長官トノ組合セニ就テハ更ニ研究ヲ要ス例ヘバ左ノ如シ (此ノ場合部名變更ヲ要ス)
  - 總務長官 (參又ハ令次官) | 總務部長、第二部長所掌事項
  - 軍政長官 (陸又ハ海次官) | 第一部長、第六部長所掌事項
  - 軍備長官 (海又ハ陸次官) | 第五部長所掌事項
- 八、各部ノ組織ニ就テハ別ニ研究ヲ要ス
- 九、各部長以下ノ陸海軍武官ノ配置ハ概テ同數トシ又適當ノ時機ニ陸海交代ス
- 十、現制大本營條例ニ就テハ之ガ改廢ニ付別ニ研究ヲ要ス
- 十一、國防總監ハ直屬ノ情報機關及通信機關ヲ有シ又統帥部政府所屬ノ情報通信機關ヲ區處スルコトヲ得ル如クス
- 十二、總力戰研究所 (國防大學) ハ國防總監ニ隸屬セシム



皇國總力戰指導機構改組概案其ノ二(乙案)



(說明)

一、本機構ノ要旨ハ現在ノ參謀本部軍令部ヲ合體シテ國防本部トシ之ニ武力戰以外ノ總力戰ニ關スル計畫調査機能ヲ充實セントスルモノナ

二、國防總監ノ權限所掌ハ現在ノ參謀總長軍令部總長ニ同ジ但シ政府諸機關ニ對シ國防及總力戰計畫上必要ナル資料ヲ要求スル權限ヲ強化ス

三、國防總監ヲ皇族トシ國防副總監ニ陸海軍大中將各一ヲ配スル別案及

四、國防副總監ノ任務ハ現在ノ參謀次長軍令部次長ニ準ズ

五、各部長以下ノ陸海軍武官ノ配員ニ關シテハ甲案說明九ニ準ズ

六、各部長以下ノ陸海軍武官ノ配員ニ關シテハ甲案說明九ニ準ズ

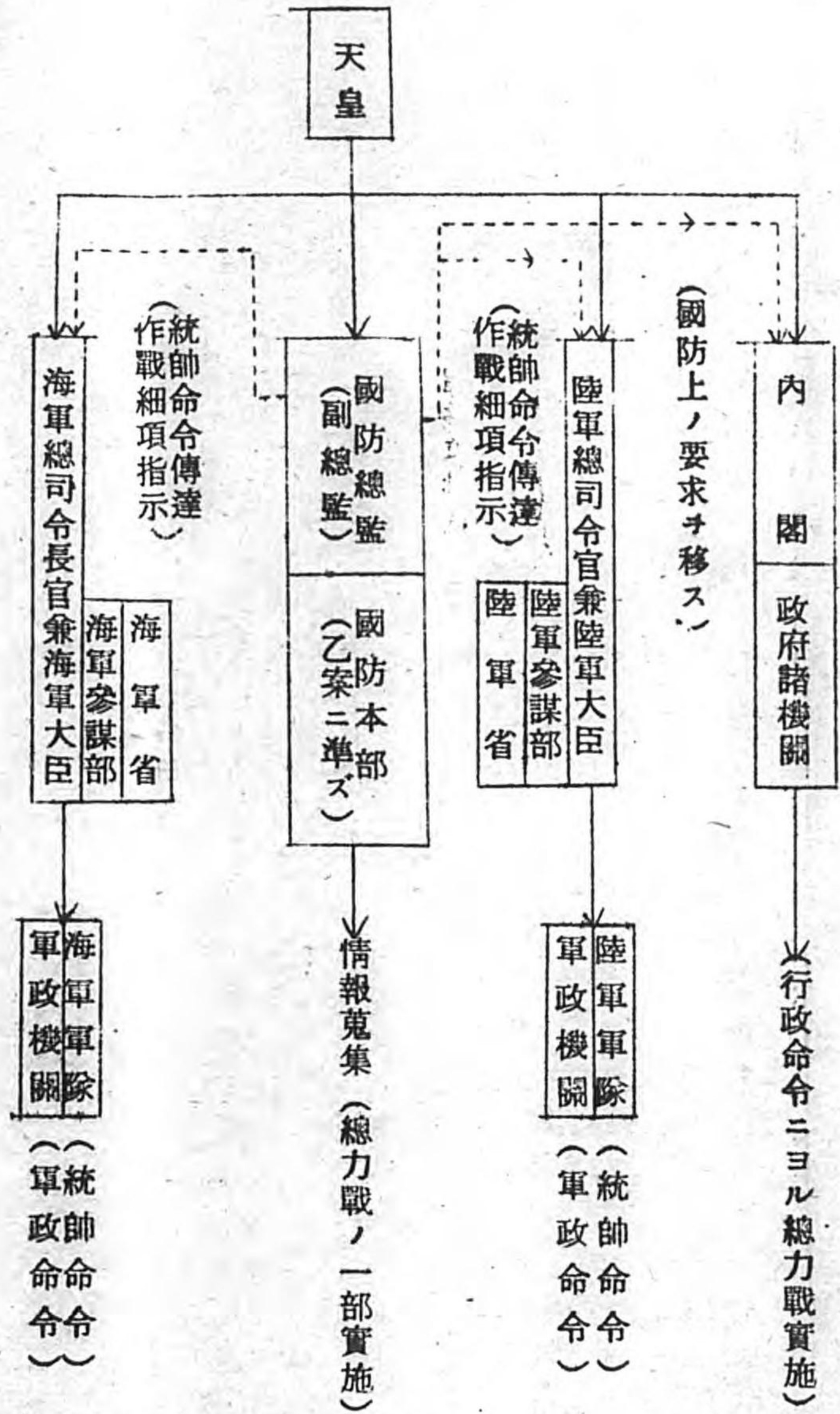
七、國防本部ニ附屬スベキ機關

八、陸海軍武官ノ業務ニ從事スル陸海軍將校ヲ國防軍將校(假稱)ニ任



(別表第三)

皇國總力戰指導機構改組概案其ノ三(丙案)

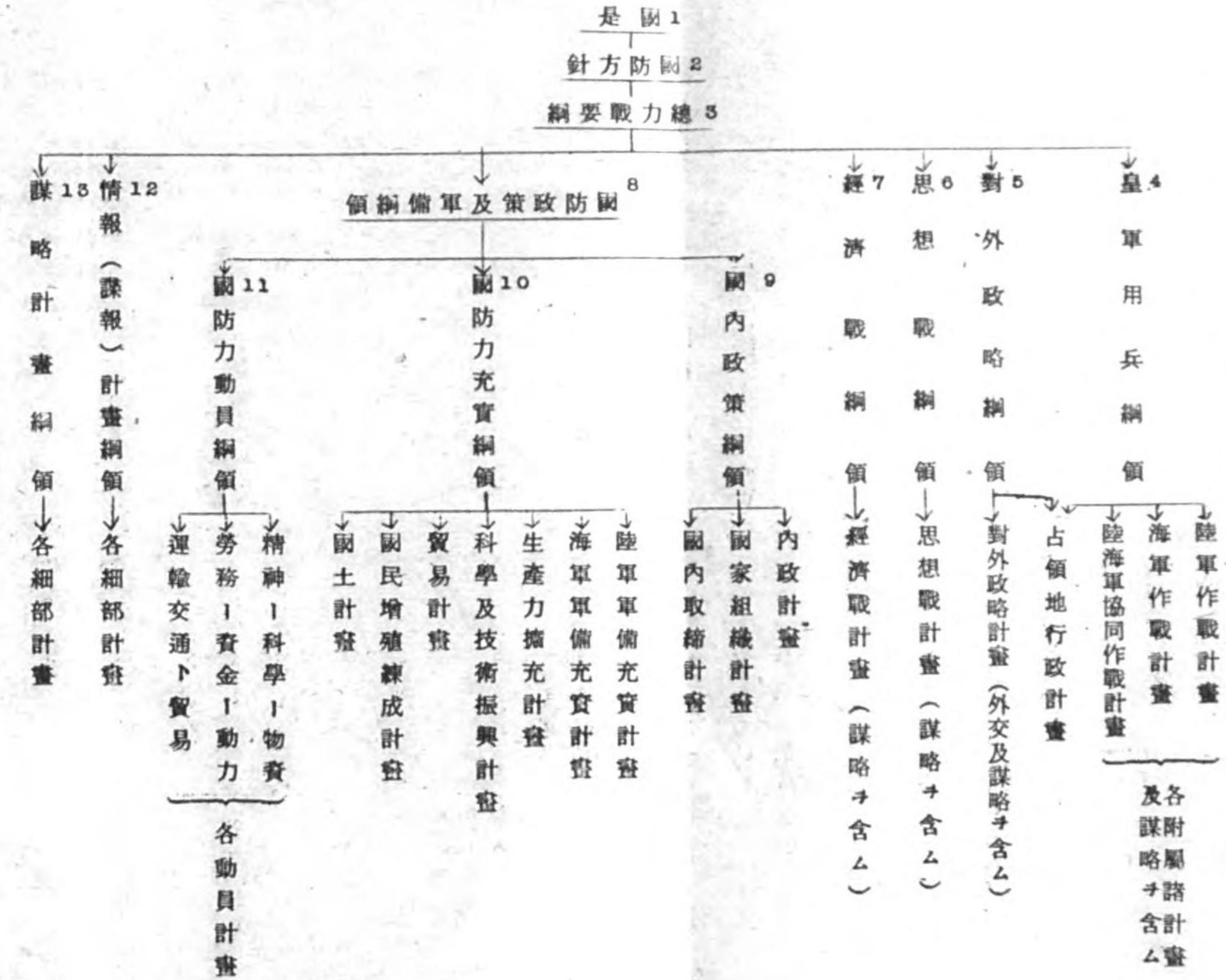


(説明)

一、國防本部ノ機構ハ乙案(又ハ甲乙折衷)ニ準ズルモ陸軍總司令官(海軍總司令官兼海軍大臣)ヲシテ陸軍(海軍)全部隊ヲ統一指揮セシメ且總司令官(總司令官長官)ハ陸軍大臣(海軍大臣)ヲ兼任セシメントスルモノナリ

二、陸(海)軍總司令(長)官ハ軍令軍政ノ幕僚機關トシテ各參謀部及省ヲ有ス、各參謀部ハ現在ノ參謀本部軍令部ノ規模ヲ縮少セルモノナリ





(別表第四附屬) 國防基本計畫ノ內容解説

1 國家存立ノ目的ニシテ肇國以來悠久ニ亘ル皇國ノ使命タルベキモ

2 國防方針ニシテ皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

3 國防方針ニシテ皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

4 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

5 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

6 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

7 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

8 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

9 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

10 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

11 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

12 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

13 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

13 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

12 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

11 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

10 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

9 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

8 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

7 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

6 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

5 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

4 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

3 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

2 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

1 皇國ノ爲政戰兩略ニ亘リ皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ



# 極秘

皇國總力戰指導機構ニ關スル研究（案）

昭和十六年一月 日

總力戰研究所

## 〔一〕總力戰的ニ觀タル世界現情勢

近代國防ガ平戰時ヲ通ズル一大總力戰的様相ニ進展シツ、アルハ茲ニ贅言ヲ要セザルトコロナリ即列強ハ國力ヲ擧ゲテ軍備擴充ニ狂奔シツ、モ必ズシモ武力戰ヲ欲スルニアラズ或ハ大軍備ヲ背景トスル威壓懷柔外交ニ依リ或ハ宣傳謀略經濟戰ニ依リ弱小國ヲ傘下ニ收メツ、敵性國ヲ無力弱體ニ導キ以テ自己國防態勢ノ強化ニ飽クトコロナキ實相ナリ而シテ支那事變及歐洲戰爭ノ發展ガ速カラズ帝國ヲモ驅ツテ世界大動亂ノ渦中ニ投ゼントスルノ兆候顯著ナルコトモ亦當面現實ノ事態ナリトス

總力戰研究所



總ツテ我國内情勢ヲ檢討スルニ蔣介石ノ武力抗戰ヲ以テ攻撃正面トシ  
經濟戰外交戰思想戰等ヲ以テ側背ヲ衝カントスル敵性諸國ノ對日聯合  
總力戰ハ漸次其ノ功果ヲ現ハシ事變長期化ニ因ル國力戰力消耗資源不  
足ニ基ク國防力充實ノ不如意等ノ傾向ヲ示シツ、アルニ加ヘ官民ノ一  
部ニ自由主義個人主義獨善排他割據的思想ノ暗躍未ダ其ノ跡ヲ絶タズ  
皇國總力戰態勢ノ急速整備上一抹ノ不安ナキ能ハザル實情ナリ



(一) 皇國總力戰指導機構ノ現状檢討

前述ノ情勢ニ鑑ミ帝國ガ舊思想ノ國防體勢<sup>別</sup>ニ妥如タル能ハズ軍備並ニ生産力ノ擴充ニ邁進スル一方企畫院情報局其他各官廳組織ノ整備充實國民組織ノ改編等ニ目覺ムルトコロアリ以テ只管國家總力戰ノ要求ニ即應セントシツ、アルハ蓋シ當然ノ措置ナリト謂フベシ而シテ國防目的ノ達成即總力戰成功ノ爲ニハ國家機構ヲシテ之ニ適合セシムルコトハ其ノ先決要件ナルトコロ總力戰實施ノ各部機構ガ前記ノ如ク<sup>添</sup>遂次新體制ヘノ轉換ヲ見ツ、アルニ拘ラズ最肝腎ナル總力戰指導ノ中樞機構ノ根本制度ハ明治時代ニ於テ制定セラレタル儘何等ノ改善ヲ見ザル現状ナリ即陸海軍統帥部及陸海軍省組織ノ對立統帥ト政務トノ分離（所謂統帥權ノ獨立）等之ニシテ前大戦當時ニ



於ケル獨乙ノ制度ト酷似セルモノアリ、惟フニ國防ガ概ネ武力戰ノ  
範圍ニ限ラレ且陸海軍ノ用兵及國防上ノ要求ニ大ナル交錯衝突ナカ  
リシ明治時代ニ於テハ現機構ヲ以テシテモ左シタル不都合ナク寧ロ  
其ノ特長ヲ發揮スルニ有利ナルモノアリシモ國防様式ガ武力經濟力  
思想力政略等ヲ舉ゲテノ總力戰トナリ陸海軍政府國民ガ一貫セル方  
針ノ下ニ渾然一體タルベキ今日ノ要求ニ對シテ現機構ハ相當ノ支障  
ヲ來シツ、アリト謂ハザルベカラズ其ノ重ナルモノヲ舉グレバ左ノ  
如シ

一、國防（總力戰）指導ニ對スル單一中樞機關ナキ爲國防上重要ナル  
各官廳ノ計畫執務目標等ニ齟齬ヲ生ジ又各部ノ計畫ニ相互關聯性  
不充分ナル結果實行困難ノ机上計畫ニ陥リ或ハ又國防上必須ノ計  
畫ヲ缺除乃至等閑視セラレタルモノ少カラズ



三、國防上重要ナル情報蒐集ニ對シ各部別個ノ機關ヲ有シ之ガ爲各部ハ屢々偏倚不完全ナル情報ヲ基礎ニ相異ル情勢判斷ヲ行ヒ其ノ孰レモガ正鵠ヲ得ザル場合アリ

三、國防基本政策ニ關シ各部ハ別個ニ事務機關ヲ有シ各部獨善的見解ニ於テ且各部別個ノ情勢判斷ノ下ニ案ヲ立テツ、アル結果各部意見ノ對立ヲ來ス場合多シ而シテ各部意見ノ對立ヲ調整シ國策トシテ之ヲ歸一セシムル爲ニハ當事者ハ多大ノ時間ト勞力ヲ論争ニ空費シ處置ノ遷延好機ノ逸失、互讓妥協ニ依ル骨抜ニシテ重點ノ喪失等幾多ノ不利ヲ生ズルコト多シ

四、前記ノ如キ各部同種業務機關ノ重複併有ハ人員經費ノ浪費トナリ而モ各部共人員經費不充分ノ爲能率舉ラズ



其所謂統帥權ノ獨立ハ一面ニ於テ幾多ノ長所ヲ有スルモ反面動モス  
レバ統帥ノ行過ギトナリ經濟戰思想戰政略等ヲ輕視又ハ無視シタ  
ル武力戰萬能ノ弊ニ陷リ國力不相應ノ作戰ヲ企圖シ或ハ無計畫ノ  
戰爭ヲ誘發スルコトアリ之ガ爲當初作戰ノ成功モ之ヲ持續シ得ズ  
戰勢固着シテ消耗戰トナリ國內動搖シ遂ニハ作戰ニ勝ツテ戰爭ニ  
敗ル、ノ結果ヲ招來スルコトナキヲ保シ難シ前大戰ニ於ケル獨乙  
ノ敗戰ニ其ノ例ヲ見ルベシ

六<sup>近時</sup>年<sup>急進</sup>ヤ帝國國民ノ大部ガ上下ヲ通ジ總力戰體制ノ即時整備ヲ希求シ  
アルニ拘ラズ之ガ實現意ノ如クナラザルハ主トシテ國家政治力ノ  
不<sup>充分</sup>弱ナルニ因ル而シテ國家政治力強化ノ爲ニハ陸海軍ガ一致シテ  
政府ニ對シ國防上ノ要求ヲ明示シ政府ハ之ガ實行ノ責任者トシテ



陸海軍ノ強力ナル支援ヲ必要トスルトコロ現機構ハ此ノ目的ニ添  
ハザル點少カラズ

々帝國ノ現制度ガ武力戰並ニ政略指導機構ニ缺陷アルコト前述ノ如  
クナルノミナラズ謀略、攻勢的經濟戰思想戰等ニ對スル指導機構

ハ總無ニ近シト謂ヒ得ベシ之ガ爲之等各種方策ノ適切機微ナル關  
聯運用ニ依リ爲シ得ルハ武力行使ヲ避ケツ、國家目的ヲ達成セシ

トスル總力戰ノ指導ニ於テ列強ニ比シ著シク遜色アリト見ザルヲ  
得ズ

ナリト云フヘシ

〔三列強總力戰指導機構ノ現狀〕

抑モ總力戰ノ要訣ガ用兵一般ノ原則ト同様ニ統制アリ且一貫セル方  
針ノ下ニ國家ノ總力ヲ適切ナル方式ヲ以テ重點ニ指向スルニアルコ



ト竝ニ之ガ爲一元化セル指導機關ヲ有スルノ最有利ナルコト言テ俟  
タザルトコロナリ、之ヲ諸外國ノ現状ニ徵スルニ獨乙ガ夙ニ前大戰  
ノ失敗ヲ自覺シテ現制度ニ於テハ統帥竝ニ戰爭指導機構ノ一元化ニ  
對シ劃期的改正ヲ行ヒ又蘇聯邦米國等ノ高度國防國家ヲ始メ英國重  
慶政權等ガ孰レモ實質的ニ一元化セル總力戰指導機構ヲ有セルコト  
ハ吾人ノ特ニ注目ヲ要スル事實ナリトス（參考資料別冊）

#### (四) 皇國總力戰指導機構ノ改組概案

皇國本然ノ姿ハ文武ノ大權天皇ニ歸一シ天皇御自ラ統帥竝ニ政務ヲ  
直裁セラルルニアリテ現下ノ國際總力戰ニ對シテモ理想的國體ナル  
ベキトコロ帝國ノ總力戰實施ノ現状ハ必ズシモ然ラザルモノアルハ  
主トシテ天皇ノ大權ヲ輔翼シ奉ルベキ中樞指導機構ニ於テ相當ノ缺  
之等



陷アルニ因ルコト既述ノ如シ

以上ノ實情ニ鑑ミ皇國總力戰指導ノ中樞機構ニ關シ考慮セララルル諸

*(假令國防本部ノ組織ニハ要ナル)*

案別紙第二乃至第四ノ如シ尙本案立案ニ當リ研究シタル總力戰實施上必要トスル諸計畫(附屬業務ヲ含ム)竝ニ之等ノ相互關係別紙第五ノ如シ

(五) 附屬意見

帝國統帥機構ノ一元<sup>化</sup>乃至戰爭指導機關ノ強化ニ就テハ國內一部ニ於テ之ガ實現ヲ高唱セラル、コト既ニ年久シキモノアリシニ拘ラズ今日尙之ガ具體化ヲ見ザルハ既往時世ノ要求剴切ナラザリシニ因ルコト勿論ナルモ反面提案ノ動機ニ不純ナルモノナシトセズ之ガ爲各部ガ自己既得權限ノ縮少ヲ危惧シ或ハ傳統ヲ理由トシ或ハ憲法ヲ楯ニ



シテ舊體制ノ牙城ヲ死守セントシタルニ因ス

然ルニ今ヤ内外ノ情勢ハ帝國ヲシテ高度國防國家ノ急速整備總力戰體制ノ即時完成ヲ強要セル最後ノ段階ニ立タシムルニ至レリ此ノ際各部ノ責任者ハ國家總力戰ノ大局的見地ニ立チ一切ノ私心ヲ棄テ大英斷ノ下之等年來ノ懸案ヲ一舉ニ解決スルコト刻下焦眉ノ急務ナリト斷ゼザルヲ得ズ而シテ之ガ爲先ヅ必要ト認ムル對策左記ノ如シ

#### 記

一、政府ハ統帥部ノ同意ヲ得テ國防中樞機構改組對策委員會ヲ編成ス其ノ編制別紙第一（概案）ノ如シ

本委員會ハ內閣總理大臣ノ管理ニ屬スルモ各所管事項ニ關シテハ陸海軍大臣參謀總長軍令部總長ノ區處ヲ受ク

二、前項委員會ハ概ネ昭和十六年三月末迄ニ左ノ諸點ニ就キ研究シ其



ノ結果ヲ答申ス

(イ) 現代國防即總力戰實施上必要ナル諸計畫竝ニ業務ノ種別其ノ相互關係（參考概要別紙第五）

(ロ) 前號諸計畫竝ニ業務ヲシテ總力戰ノ要求ニ合致セシムルニ最適當ナル國防中樞機構ノ組織及之ニ關聯シテ各官廳組織又ハ法律ノ改正ヲ要スル事項（參考概要別紙第二乃至第四）

(ハ) 前號實施ニ必要ナル法的及事務的處理事項

三、前項委員會ノ答申ニ基キ政府及統帥部ハ速ニ所要ノ措置ヲ斷行ス

（別紙第一乃至第六添）

（終）



(別紙第一)

國防中樞機構改組對策委員會編制 (概要)

委員長 總力戰研究所長

委員 陸軍省海軍省 (各) 局長一

同 右 課長級二 (內幹幹事)

同 右 課員級一 (幹事輔佐)

參謀本部軍令部 (各) 部長二

同 右 課長級四 (內二幹事)

同 右 課員級二 (幹事輔佐)

法制局 課長級一 (幹事)

大藏省 課長級一 (幹事)

企業院 課長級二

總力戰研究所 所員八 (內三幹事)

(註) 軍機事項ニ關シテハ武官ノミチ以テ編制スル特別分科委員會ニ於テ取扱フモノトス

總力戰研究所



(別紙第五) (改案)

國防本部 (假稱) 組織概要其ノ一 (甲案)

國防總監 (内閣總理大臣)

國防本部ヲ管理シ左ノ事項ヲ掌ル但シ統帥事項ニ關シテハ國防副總監ニ其ノ權限ヲ委任スルモノトス  
〔國防及國家總力戰ニ關スル要綱ヲ案劃シ上裁ノ後之ヲ政府及陸海軍統帥部ニ傳達ス  
〔國防及國家總力戰ニ關スル政府統帥部各官廳所掌業務ノ關係ヲ調節ス  
〔前二項ニ必要ナル情報ノ蒐集及他官廳ノ所掌ニ關セザル國家總力戰ノ一部ヲ實施ス

國防副總監 (參謀總長及軍令部總長)

兩副總監協力シテ  
〔總監輔佐  
〔國防本部各部業務統制  
〔統帥事項ニ關シ總監ノ權限分掌

官房長 (軍少將)

庶務、會計、人事、文書

總務長官 (次長)

總務部 (業務管理總力戰ニ關シ副總監輔佐)

總務部長 (軍少將)

國防方針、總力戰要綱、國防組織

第一部長 (軍少將)

國防本部各部業務關係、調節

情報長官 (次長)

第六部 (業務管理總力戰ニ關シ副總監輔佐)

第二部長 (軍少將)

内外情報、情勢判斷

第三部長 (軍少將)

諜報、謀略 (細項ノ一部ハ他部所掌ニ移ス)

政策長官 (軍次官)

第七部 (業務管理總力戰ニ關シ副總監輔佐)

第四部長 (軍少將)

國防政策

第五部長 (軍少將)

對滿支政策、占領地行政

軍備長官 (軍次官)

第八部 (業務管理總力戰ニ關シ副總監輔佐)

第六部長 (軍少將)

軍備、戰備

資源長官 (企畫院次長)

第九部 (業務管理總力戰ニ關シ副總監輔佐)

第七部長 (軍少將)

國防力充實

第八部長 (軍少將)

國防力動員

政略長官 (外務次官)

第十部 (業務管理總力戰ニ關シ副總監輔佐)

第九部長 (勅任二等)

對外政略 (謀略ノ一部)

思想戰長官 (勅任一等)

第十一部 (業務管理總力戰ニ關シ副總監輔佐)

第十部長 (勅任二等)

思想戰 (謀略ノ一部)

經濟戰長官 (勅任一等)

第十二部 (業務管理總力戰ニ關シ副總監輔佐)

第十部長 (勅任二等)

經濟戰 (謀略ノ一部)

國防參與官 (各省大臣、企畫院總裁、情報局總裁)

國防總監ノ指示ニ依リ國防本部ノ機務ニ參與ス

註一、各部所掌事項ノ解説

(1) 國防方針トハ國是即國家目的達成ノ爲皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ云フ

(2) 總力戰要綱トハ國防方針ニ基キ當面ノ總力戰遂行ニ必要ナル基本方針ヲ云ヒ國防本部各部業務ノ基準トナルベキモノナリ

(3) 國防組織トハ國防及總力戰實施ニ必要ナル國家各機關ノ組織ヲ云ヒ各部及他官廳所掌ニ屬スル細項ヲ除ク

(4) 國防政策トハ總力戰要綱ニ基キ國家ノ執ラントスル政策ニシテ他部所掌ト重複スルモノハ共通事項及相互關係ヲ律スルニ止ム

(5) 陸海軍武官ノ配當ノ時機ニ彼此交代ス

(6) 統帥部及政府諸機關ノ組織ハ國防本部所掌ト重複スルモノヲ解消スル外概テ現狀通トス

(7) 國防本部ニ附屬スベキ機關

(8) 通信機關 (傍受機關ヲ含ム)

(9) 在外情報機關 (國防總監ハ情報ニ關シ在外公館、各省派遣在外員等ヲ區別ス)

(10) 在外特殊任務機關

(11) 國防大學 (總力戰研究所)



(別紙第四) (改案)

國防本部 (假稱) 組織概要其ノ二 (乙案)

國防總監 (軍大將)

國防本部ヲ管理シ左ノ事項ヲ掌ル

一、上裁ヲ經テ統帥命令傳達並ニ細項指示

二、國防及國家總力戰ニ關スル要綱 (統帥事項ヲ除ク) ヲ案劃シ之ヲ政

府ニ移ス

三、前二項ニ必要ナル情報ノ蒐集及政府ト協議シテ國家總力戰ノ一部ヲ

實施ス

國防副總監 (軍大中將)

官房長 (軍少將)

總監輔佐、國防本部各部業務統制  
庶務、會計、人事、文書

總務長官 (軍中將)

總務部長 (軍少將)

總務第一、二、三部業務管理總力戰ニ關シ副總監補佐

第一部長 (軍少將)

第二部長 (軍少將)

第三部長 (軍少將)

國防方針、總力戰要綱、國防組織  
國防本部各部業務ノ關係調節  
國軍用兵綱領、陸海軍協同作戰  
内外情報諜報、情勢判斷  
國防政策、軍備綱領、占領地行政

陸軍長官 (陸軍中將)

第四部長 (陸軍少將)

第五部長 (陸軍少將)

第六部長 (陸軍少將)

第四、五、六部業務管理總力戰ニ關シ副總監補佐  
陸軍作戰及附屬業務

海軍長官 (海軍中將)

第七部長 (海軍少將)

第八部長 (海軍少將)

第九部長 (海軍少將)

第七、八、九部業務管理總力戰ニ關シ副總監補佐  
海軍作戰及附屬業務

特務長官 (軍中將)

第十部長 (軍少將)

第十一部長 (軍少將)

第十二部長 (軍少將)

第十、十一、十二部業務管理總力戰ニ關シ副總監補佐  
謀略  
思想戰 (謀略ノ一部)  
經濟戰 (謀略ノ一部)

註(一) 各部所掌事項ノ解説ハ甲案 (別紙第三) 参照

(二) 參謀本部軍令部ヲ解消ス

(三) 國防本部ニ附屬スベキ機關

(イ) 參謀本部軍令部ニ附屬セシ諸機關 (適當ニ整理ス)

(ロ) 在外特殊任務機關 (ハ) 國防大學 (總力戰研究所)

(四) 國防總監ハ情報ニ關シ在外公館、各省派遣在外員等ヲ區處ス

(五) 陸海軍共通ノ業務ニ從事スル陸海軍將校ヲ國防軍將校 (假稱) ニ任ズル案ニ就キ研究ヲ要ス



(別紙第四)

國防本部(假稱) 概要其ノ三(丙、丁、戊案)

丙案(甲案別案)

國防委員會(首、陸、海、外各<sup>相</sup>、企畫院總裁、參謀總長、軍令部  
總長)

其ノ權限甲案國防總監ニ同ジ但シ「國防副總監」ヲ「參謀總長」  
ニ軍令部總長」ニ改ム

國防本部

甲案官房長以下ノ組織トシ國防參與官ヲ除ク  
國防委員會ニハ必要ニ應ジ國務大臣ヲ列席セシム

丁案(乙案別案)

參謀總長並ニ軍令部總長

協同シテ國防本部ヲ管理シ左ノ事項ヲ掌ル



(其ノ權限乙案國防總監ニ同ジ)

國防本部ノ組織

官房長以下乙案ニ準ズ

戊案

一、國防本部ノ組織ハ甲案又ハ乙、丙、丁案ニ依ル

二、陸海軍ニ於ケル天皇直隸官ヲ陸軍總司令官(陸軍大臣兼任)及海軍總司令官(海軍大臣兼任)ノミトシ各總司令官(司令長官)ニ陸海軍部隊ヲ隸屬セシム

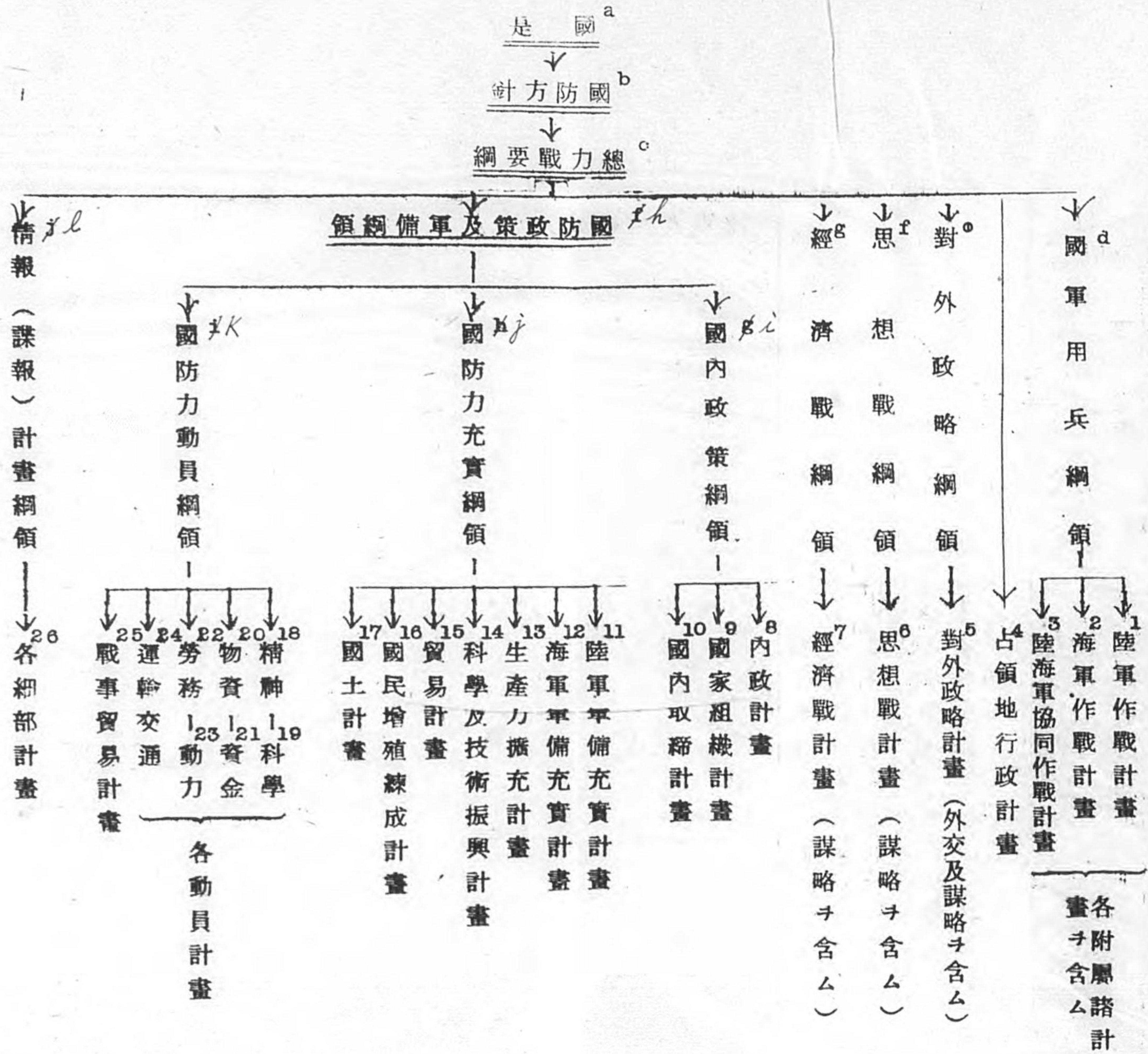
三、陸海軍總司令(長)官(兼陸海軍大臣)ニ其ノ幕僚機關トシテ參謀本部、軍令部(作戰幕僚トシ現在ノ組織ヲ縮少セルモノ)陸軍省、海軍省(軍政幕僚)ヲ附屬ス



國防計畫(總力戰計畫)ノ種別及相互關係(概要)

(國防基本計畫)

(國防部分計畫)



註(一)國防基本計畫ノ立案竝ニ國防部分計畫ノ指導監督及其ノ一部實

施ノ爲一機關(假稱國防本部)ヲ設置スルヲ有利トス

□國防部分計畫本部ノ立案運用ハ陸海軍統帥部及政府各官廳之ニ當ル



周松河氏

(別紙第六)

國防本部 (假稱) 組織概案其ノ四 (丙案)

國防總監 (內閣總理大臣)

上裁ヲ經テ政府及陸海軍統帥部ニ對シ國防上準據スベキ要綱指示、但シ統帥事項ニ關シテハ兩副總監ノ同意ヲ得ルヲ要シ且其ノ統帥部ニ對スル指示ハ副總監ニ委任スルヲ例トス

國防副總監 (參謀總長及軍令部總長)

國防總監輔佐、國防本部各局部業務統制、總監ノ委任ニ依リ統帥部ニ對スル指示

各局長官  
各部長

(配員所掌概ネ甲案ニ同ジ)

國防諮問委員會 (陸海外藏各相、企畫院總裁)

國防基本政策ニ關シ國防總監ノ諮問ニ應ズ

(註) 甲案註ニ準ズ

總力戰研究所



(別紙第五附屬)

國防基本計畫ノ説明

a 國是

國家存立ノ目的ニシテ肇國以來悠久ニ亘ル皇國ノ使命タルベキモノナリ

b 國防方針

國是貫徹ノ爲皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ謂フ

o 總力戰要綱

國防方針ニ基キ皇國ガ當面ノ總力戰遂行上執ラントスル基本方針ニシテ武力戰政略思想戰經濟戰謀略謀報等ノ基本方針竝ニ相互ノ關聯運用ヲ律セルモノナリ

d 皇軍用兵綱領

總力戰要綱ニ基キ武力行使ヲ必要トスル場合ニ於ケル皇國陸海軍用兵ノ方針竝ニ兩軍用兵ノ相互關係ヲ律セルモノナリ



● 對外政略綱領

總力戰要綱ニ基キ對外政略即友好國傘下國ノ擴大敵性國ノ孤立無力化ヲ圖ルベキ方策ノ基本方針ニシテ正奇ノ兩面ヲ含ムモノトス

① 思想戰綱領

總力戰要綱ニ基キ敵性國國民ヲ思想的ニ攪亂シ更ニ我ニ屈從セシムベキ攻勢的方策竝ニ敵性國ノ同種手段ニ對シ防衛スル方策ノ基本方針ニシテ正奇兩面ヲ有シ且武力戰政略經濟戰國內政策等ト不可分ノ關係ヲ有ス

② 經濟戰綱領

總力戰要綱ニ基キ敵性國ノ經濟力ヲ破壞シ自國ノ經濟力ヲ確保増大セントスル基本方針ニシテ武力戰、政略、思想戰ト併行スルヲ要シ且正奇ノ兩面ニ亘リ國防政策及軍備綱領トモ不可分ノ關係ヲ有ス

③ 國防政策及軍備綱領



總力戰要綱ニ基キ又用兵綱領ノ實施ニ必要ナル國家政策及軍備充實ニ關スル基本方針ニシテ國內政策國防力充實竝ニ動員綱領ノ基準タルベキモノナリ

イ 國內政策綱領

國防政策綱領ニ基キ國防及總力戰ノ實施上必要ナル國內政策ノ基本要綱ヲ云フ

ロ 國防力充實綱領

國防政策及軍備綱領ニ基キ國防力ノ全要素ニ亘ル充實擴充整備ニ關スル基本方針ニシテ一定期間ヲ劃スルヲ例トス

ハ 國防力充實綱領

有事ニ際シ國防力各要素ノ全部又ハ一部ヲ動員シテ總力戰ノ要求ニ適合セシムル爲ノ基本方針ヲ云フ

ニ 情報（謀報）計畫綱領

合法的又ハ隱密ノ手段ニ依リ總力戰ニ必要ナル情報ヲ蒐集シ且之



ヲ整理シテ實用ニ便ナル形タラシムル業務計畫ノ方針ヲ云フ

(終)

總力戰研究所



# 閣私所員

(指導機構ニ關スル研究案九枚目一行乃至五行代案)

極私

陷アルニ因ルニト既述ノ如シ

以上ノ實情ニ鑑ミ皇國總力戰指導機構ニ具備スベキ要件ヲ考察スル

ニ概ホ左ノ如シ

一、天皇御自ラ總力戰指導ヲ直裁セラルルノ本義ヲ誤ラザルコト

二、統帥ト政治ニ密接不可分ノ關聯ヲ保有セシムルト共ニ統帥ノ自由

ヲ東瀛セラレザルコト

三、陸海軍統帥並ニ軍政ノ合理的協調ヲ保タシムルコト

四、成ルベク憲法改正各官廳制度ノ大變革等ヲ避ケ實現ヲ容易迅速ナ

ラシムルト共ニ新機構ヘノ轉換ヲ圓滑ナラシムルコト

五、總力戰指導中樞機構(國防本部ト假稱ス以下之ニ倣フ)ニ於テ計

畫セシメタラシモノハ武力戰、政略、思想戰、經濟戰等ノ各部門ニ



亘り實行性ヲ有スルコト

六、國防本部（假稱）内ノ業務ハ一貫セル統制ノ下ニ處理セラレ充分ニ審議洗練セラレ得ルト共ニ必要ニ應ジテ迅速機敏ナル決裁ヲ可能ナラシムルコト

七、國防本部（假稱）ガ各官廳ノ出店組合ノ觀ヲ呈シ對立論争又ハ妥協調停ノ機關タル弊ニ陷ルヲ避ケ眞ニ總力戰ノ原則ニ從ヒ重點アル機宜ノ對策ヲ可能ナラシメ得ルモノナルコト

八、國防本部（假稱）ノ計畫ヲシテ眞ニ權威アラシムル爲ニハ總力戰指導ニ對スル情況判斷ヲ適正完璧ナラシムルヲ要ス之ニ對シ有力ナル情報機關（總力戰資料ノ調査整理ヲ含ム）ヲ有セシムルコト  
特ニ緊要ナリ



以上ノ要件ニ該シ帝國現在ノ制度ニ即シ實現可能ト認メラルル諸案  
左ノ如シ

内閣



令（長）官ヲシテ之等ヲ統轄セシメ且陸（海）軍大臣ヲ兼任セシムル案ニシテ獨乙ノ現制度ト類似ノモノナリ

本案ハ陸（海）軍作戰ト陸（海）軍軍政トノ協調ヲ容易ナラシムルノ利アルモ作戰ガ政務ニ制肘セラルノ不利ヲ伴フ

尙總力戰指導機構立案ニ當リ國防及總力戰ニ必要ナル諸計畫（附屬業務）竝ニ之等相互關係ヲ檢討スルノ要アルトコロ之ニ對スル概案

竝ニ國防本部ニ於テ掌ルベキ各種國防基本計畫ノ内容ニ關スル說明別紙第五（附屬書共）ノ如シ



甲案（別紙第二參照）

現在ノ大本營連絡會議及附屬事務局ヲ常設（國防本部ト假稱）シ  
國防及國家總力戰ニ對スル基本計畫ヲ掌ラシメントスルモノナリ  
本案ハ前述要件六、七、ニ對シ稍不充分ナル缺點ヲ有スルモ其ノ  
他ノ條件ヲ概ネ充足シ特ニ要件五ニ對シ有利ナリ

乙案（別紙第三參照）

陸海軍統帥部ヲ合體強化シ之ニ武力戰以外ノ總力戰ニ對スル計畫  
機關ヲ充實セントスルモノナリ

本案ハ前述要件五ニ對シ稍不充分ナルモ其ノ他ノ條件ヲ概ネ充足  
シ特ニ要件六、七ニ對シ有利ナリ

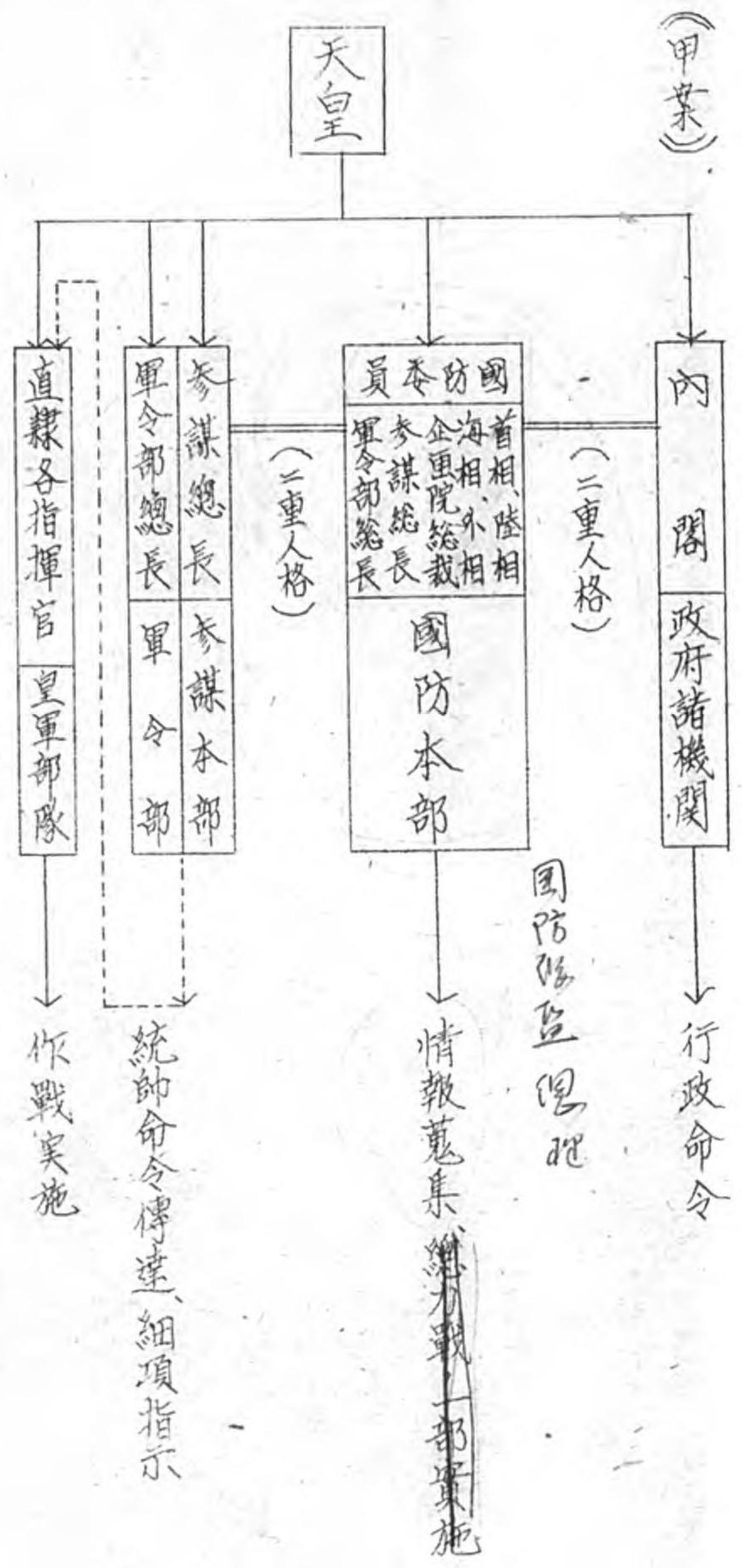
丙案（別紙第四參照）

相當多數ニ上ル陸（海）軍部隊ノ天皇直隸ヲ廢シ陸（海）軍總司

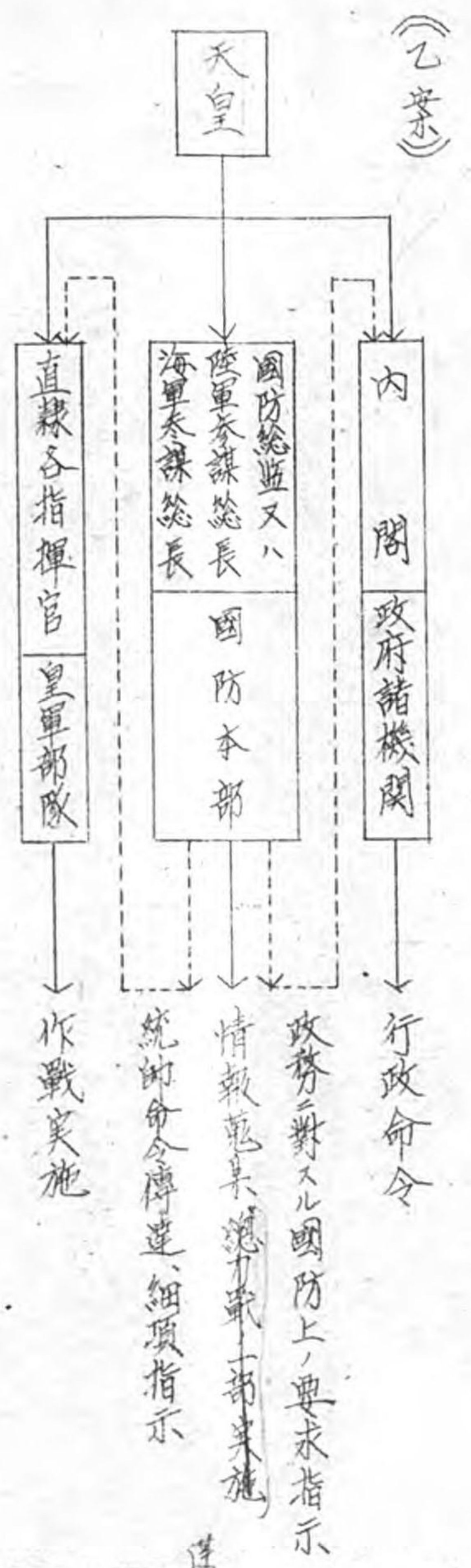


(別紙第二)  
皇國總力戰指導機構改組(概要)要領

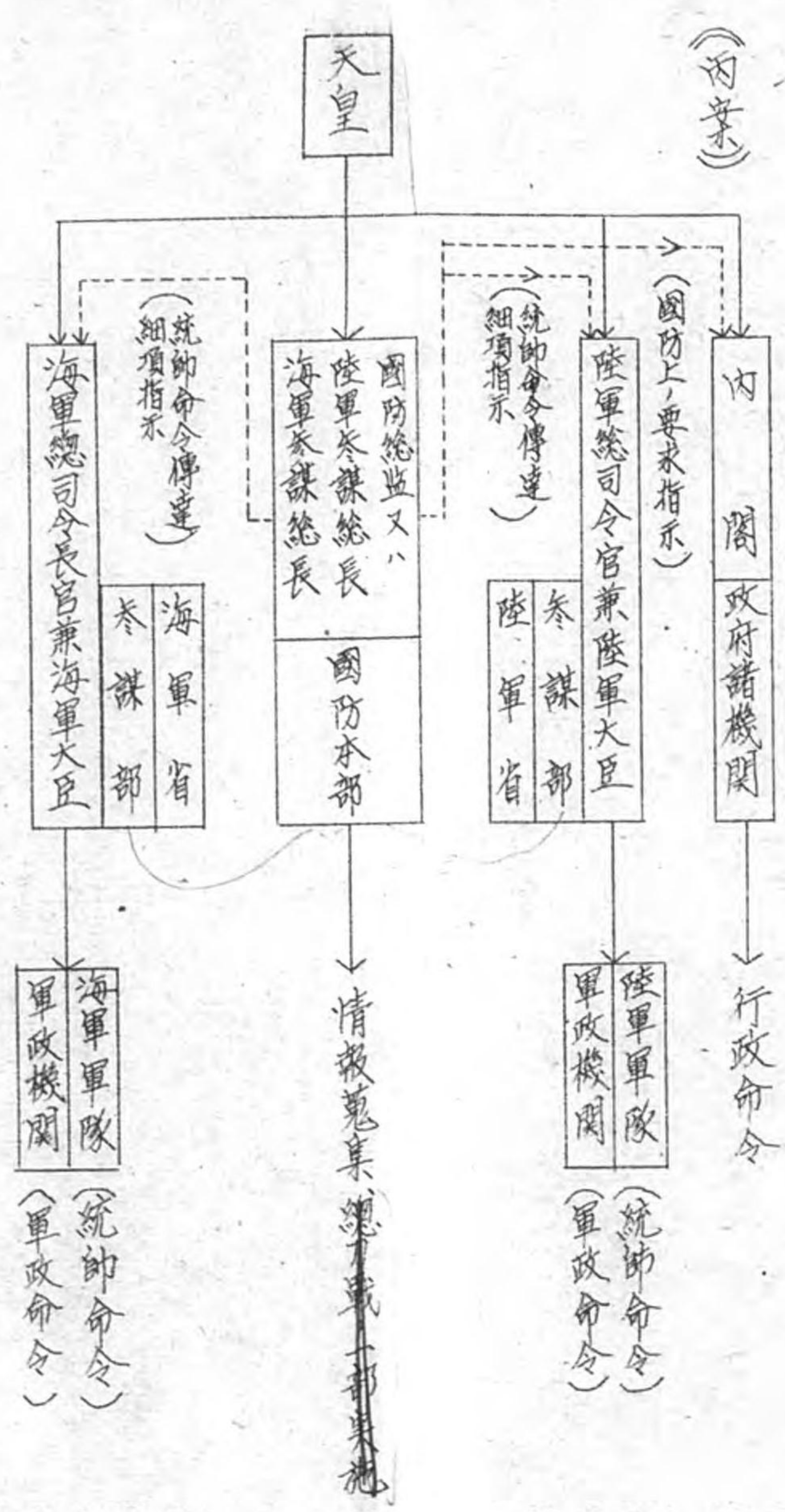
(甲案)



(乙案)



(丙案)





(別紙第三) (第二改案)  
國防本部 (假稱) 組織概要其ノ一 (甲案)

一 組織方針  
現在ノ大本營(連絡會議ニ附屬事務局(國防本部)ヲ常設セントスル思想ニシテ陸海軍統帥部及政府各官廳ニ分屬セル重複類似ノ事務ヲ國防本部ニ統ス

(二) 組織概要

國防委員 (首相、陸相、海相、外相、企畫院總裁、參謀總長、軍令部總長)  
國防委員ハ協同シテ國防本部ヲ管理シ左ノ事項ヲ掌ル但シ統帥事項ニ關シテハ參謀總長及軍令部總長ノ協同所掌トス  
一、國防及國家總力戰ニ關スル要綱ヲ案劃シ上裁ノ後政府及陸海軍統帥部ヲ通ジテ之ヲ實行ニ移ス  
二、國防及國家總力戰ニ關スル政府統帥部各官廳業務ノ關係ヲ調節ス  
三、前二項ニ必要ナル情報ノ蒐集及所掌不分明ナル國家總力戰ノ一部ヲ實施ス

官房長 (軍少將)  
總務長官 (大長)  
總務部長 (軍少將)

庶務、會計、人事、文書  
總務第一、二部ノ業務管理、總力戰ニ關シ國防委員輔佐  
國防方針、總力戰要綱、國防組織  
國防本部各部業務關係ノ調節  
皇軍用兵綱領、陸海軍協同作戰、國土防衛

情報長官 (大長)  
第二部長 (軍少將)  
第三部長 (軍少將)

第二、三部ノ業務管理、總力戰ニ關シ國防委員輔佐  
内外情報、總力戰資料、情勢判斷  
諜報、謀略 (細項ノ一部ハ他部所掌ニ移ス)

政策長官 (軍次官)  
第四部長 (軍少將)  
第五部長 (軍少將)

第四、五部ノ業務管理、總力戰ニ關シ國防委員輔佐  
國防政策  
對滿支政策、占領地行政

軍備長官 (軍次官)  
第六部長 (軍少將)

第六部ノ業務管理、總力戰ニ關シ國防委員輔佐  
軍備、戰備

經濟戰長官 (企畫院次長)  
第七部長 (勅任二等)  
第八部長 (勅任一等)

第七、八部ノ業務管理、總力戰ニ關シ國防委員輔佐  
經濟戰 (謀略ノ一部)  
國防力充實、國防力動員

政略長官 (外務次官)  
第九部長 (勅任二等)  
第十部長 (勅任二等)

第九、十部ノ業務管理、總力戰ニ關シ國防委員輔佐  
對外政略 (謀略ノ一部)  
思想戰 (謀略ノ一部)

註一、各部所掌事項ノ解説

- (1) 國防方針トハ國是即國家目的達成ノ爲皇國ノ執ラントスル一般方略ヲ云フ
- (2) 總力戰要綱トハ國防方針ニ基キ當面ノ總力戰遂行ニ必要ナル基本方策ヲ云ヒ國防本部各部業務ノ基準トナルベキモノナリ
- (3) 國防組織トハ國防及總力戰實施ニ必要ナル國家各機關ノ組織ヲ云ヒ各部及他官廳所掌ニ屬スル細項ヲ除ク
- (4) 國防政策トハ總力戰要綱ニ基キ國家ノ執ラントスル政策ニシテ他部所掌ト重複スルモノハ共通事項及相互關係ヲ律スルニ止ム
- (5) 陸海軍武官ノ配當ノ時機ニ彼此交代ス
- (6) 統帥部及政府諸機關ノ組織ハ國防本部所掌ト重複スルモノヲ解消スル外概テ現狀通トス
- (7) 國防本部ニ附屬スベキ機關
- (8) 通信機關 (傍受機關ヲ含ム)
- (9) 在外情報機關 (國防總監ハ情報ニ關シ在外公館、各省派遣在外員等ヲ專處ス)
- (10) 在外特殊任務機關
- (11) 國防大學 (總力戰研究所)

(別紙第三附屬)

國防本部組織概要 (甲案別案)

國防委員

總務長官 (軍次官)  
總務部長 (軍少將)  
第一部長 (軍少將)

總務、第一部ノ業務管理、總力戰ニ關シ國防委員輔佐  
國防方針、總力戰要綱、國防組織  
國防本部各部業務ノ關係調節  
國防政策

用兵長官 (大長)  
第二部長 (軍少將)

第二部ノ業務管理、總力戰ニ關シ國防委員輔佐  
皇軍用兵綱領、陸海軍協同作戰、國土防衛

情報長官 (大長)  
第三部長 (軍少將)  
第四部長 (軍少將)

第三、四部ノ業務管理、總力戰ニ關シ國防委員輔佐  
内外情報、總力戰資料、情勢判斷  
諜報、謀略 (細項ノ一部ハ他部所掌ニ移ス)

軍政長官 (軍次官)  
第五部長 (軍少將)  
第六部長 (軍少將)

第五、六部ノ業務管理、總力戰ニ關シ國防委員輔佐  
軍備、戰備  
對滿支政策、占領地行政



(別紙第五) (第二改案)

國防本部 (假稱) 組織概要其ノ二 (乙案)

(一) 組織方針

軍令部參謀本部ヲ合体シ之ニ武力戰以外ノ總力戰ニ關スル計畫機關及情報調査機關ヲ充實ス

(二) 組織概要

國防總監 (軍大將)

(乙案ノ二) 陸軍參謀總長 (陸軍大將)

國防本部ヲ管理シ左ノ事項ヲ掌ル

海軍參謀總長 (海軍大將)

- 一、上裁ヲ經テ統帥命令傳達ニ細項指示
- 二、國防及國家總力戰ニ關スル要綱 (統帥事項ヲ除ク) 案劃シ之ヲ政府ニ移ス
- 三、前二項ニ必要ナル情報ノ蒐集及政府ト協議シテ國家總力戰ノ一部ヲ實施ス

防本部ヲ管理シ左ノ事項ヲ掌ル  
一、以下乙案ノ一國防總監ノ所掌ニ同ジ

國防副總監 (軍大中將)

官房長以下ノ所掌中「副總監輔佐」ヲ「總監輔佐」ニ改ム

總監輔佐、國防本部各部業務統制 庶務、會計、人事、文書

總務長官 (軍中將)  
總務部長 (軍少將)

總務、第一、二、三部ノ業務管理、總力戰ニ關シ副總監輔佐  
國防方針、總力戰要綱、國防組織  
國防本部各部業務ノ關係調節  
皇軍用兵綱領、陸海軍協同作戰、國土防衛  
内外情報、諜報、總力戰資料、情勢判斷  
國防政策、軍備綱領、占領地行政

第一部長 (軍少將)  
第二部長 (軍少將)  
第三部長 (軍少將)

陸軍長官 (陸軍中將)

第四部長 (陸軍少將)  
第五部長 (陸軍少將)  
第六部長 (陸軍少將)

第四、五、六部ノ業務管理、總力戰ニ關シ副總監輔佐  
陸軍作戰及附屬業務  
第七、八、九部ノ業務管理、總力戰ニ關シ副總監輔佐

海軍長官 (海軍中將)

第七部長 (海軍少將)  
第八部長 (海軍少將)  
第九部長 (海軍少將)

特務長官 (軍中將)

第十部長 (軍少將)  
第十一部長 (軍少將)  
第十二部長 (軍少將)

第十、十一、十二部ノ業務管理、總力戰ニ關シ副總監輔佐  
謀略  
思想戰 (謀略ノ一部)  
經濟戰 (謀略ノ一部)

註 (一) 各部所掌事項ノ解説ハ甲案 (別紙第二) 参照

(二) 參謀本部軍令部ヲ解消ス

(三) 國防本部ニ附屬スベキ機關  
(イ) 參謀本部軍令部ニ附屬セシ諸機關 (適當ニ整理ス)  
(ロ) 在外特殊任務機關 (國防大學 (總力戰研究所))

(四) 國防總監ハ情報ニ關シ在外公館、各省派遣在外員等ヲ區處ス  
(五) 陸海軍共通ノ業務ニ從事スル陸海軍將校ヲ國防軍將校 (假稱) ニ任ズ  
ル案ニ就キ研究ヲ要ス



MICROFILMING

Document 1566 Source: Cabinet Secretariat

has been microfilmed on 21 Oct 1948 for  
permanent historical record.

(None) (Part) of this document had been extracted for court use.

F. MATTISON  
Files Unit  
Document Division

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

EVIDENTIARY DOCUMENT NUMBER 1566

TITLE: Book, "The Study of the System of /national/ Organization  
for the Total War of the Empire."

SOURCE: Cabinet Secretariat



INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 1566

8 May 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT.

Title and Nature: Book, "The Study of the System of  
/national/ Organization for the Total War of the Empire."

Date: 3 Feb 41 Original  Copy  Language: Japanese

Has it been translated? Yes  No   
Has it been photostated? Yes  No

LOCATION OF ORIGINAL: Cabinet Secretariat

PERSONS IMPLICATED:

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE: Preparations for war--  
productive.

SUMMARY OF RELEVANT POINTS (with page references):

A survey of internal and foreign economic situation.

Outlines a plan for organization for the Imperial total  
war.

Analyst: C.W.J. Phelps

Doc. No. 1566



INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. *1566*

Date *8 May 1946*

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT.

Title and Nature: *Book, "The study of the system of [national] organization for the total war of the Empire."*

Date: *3 Feb 1941* Original ( Copy ( ) Language: *Jap*

Has it been translated? Yes ( ) No (  
Has it been photostated? Yes ( ) No (

LOCATION OF ORIGINAL (also WITNESS if applicable) as of \_\_\_\_\_:

*Doc. Div.*

SOURCE OF ORIGINAL: *Cabinet Secretariat*

PERSONS IMPLICATED:

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE:

*Preparations for war - productive.*

SUMMARY OF RELEVANT POINTS (with page references):

*A survey of internal and foreign economic situation.*

*Outlines a plan for organization for the Imperial total war.*

Analyst

*C. W. J. Phelps*

Doc. No.